

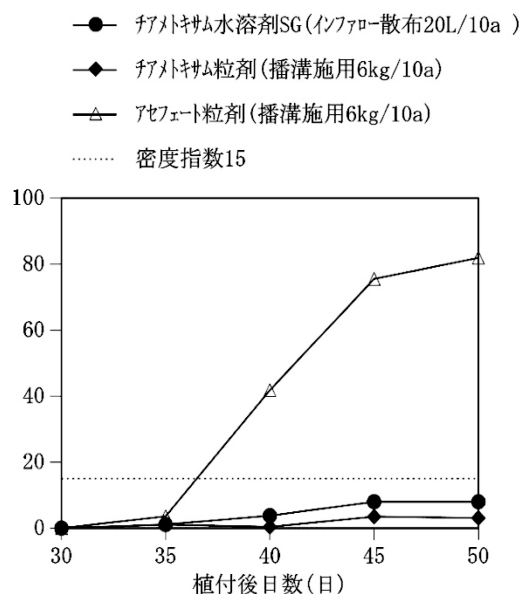


図1 リーフケージにおける各植付後日数（放飼約7日後）のジャガイモヒゲナガアブラムシの密度指数（2020年、十勝農試）

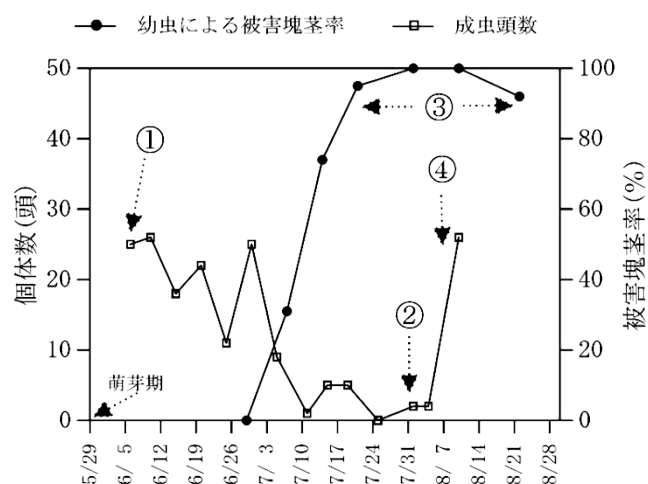


図2 ナストビハムシの発消長と発育零点と有効積算温度による成虫の発生（羽化日）予測（2022年、北見農試）

注1) ①越冬成虫初発 ②新成虫初発 ③塊茎被害ピーク ④予測羽化日

注2) 個体数：20株の合計成虫頭数、被害塊茎率：3株全塊茎の平均値

表1 各処理方法のナストビハムシに対する防除効果（2020年～2021年、北見農試、十勝農試、オホーツク管内A町）

処理区名*1	北見		十勝		オホーツク管内A町
	2020年	2021年	2020年	2021年	2020年
	食害程度（防除値）	食害程度（防除値）	食害程度（防除値）	食害程度（防除値）	食害程度（防除値）
インファロー	0.7 (87.1)	1.3 (81.4)	0.5 (83.3)	2.2 (92.4)	2.7 (94.9)
インファロー+茎葉散布×2	0.8 (83.9)	0.5 (93.0)	-	-	-
茎葉散布×2	1.7 (67.7)	2.8 (60.5)	0.2 (94.4)	14.8 (48.0)	15.7 (70.4)
無処理	5.2	7.2	3.0	28.5	53.0
（ナストビハムシ発生量）	（少発生）	（少発生）	（少発生）	（中発生）	（甚発生）

*1 インファロー：チアメトキサム水溶剤 SG 100 倍 20L/10a を植付時に処理

*2 茎葉散布×2：チアメトキサム水溶剤 SG 2000 倍 100～120L/10a、(2020 年十勝のみ)シペルメトリン水和剤 WDG 3000 倍 100L/10a をそれぞれ 2 回散布。散布日は 6 月 10 日前後(萌芽後約 10 日後)とその約 7～10 日後程度に散布を実施

表2 現地圃場におけるインファロー散布機を用いた際のナストビハムシに対する防除効果（2021年、現地2箇所）

		収穫時調査*2	
		塊茎被害率 (%)	食害程度（防除値）
オホーツク管内 A町 「コナヒメ」	インファロー*1	1.3	0.3 (84.6)
	無処理	8.7	2.2
十勝管内 A町 「男爵薯」	インファロー*1	41.7	10.9 (72.7)
	無処理	93.0	39.9

*1 用いた薬剤は両地域共通、チアメトキサム水溶剤 SG 100 倍 20L/10a

*2 調査は 9 月に実施、オホーツク管内は 50 塊茎疑似 3 反復、十勝管内は 150 塊茎 2 反復調査の平均値を示す

詳しい内容については、次にお問い合わせください。
道総研北見農業試験場 生産技術グループ
電話 (0157) 47-2146 E-mail: kitami-agri@hro.or.jp